



平成26年度 稲作こよみ

津安芸農業協同組合
監修 J A 全農 みえ

生育時期	播種	田植	田植40日後	中干し開始	出穂	出穂	出穂	落穂	成熟
生育時期	みえのえみ	3/26	4/20	5/30	6/5	6/25	7/15	8/12	8/19
	コシヒカリ	3/31 4/5~10	4/25 4/30	6/4 6/9	6/9 6/14	7/5 7/8	7/23 7/26	8/21 8/24	*8/27 8/30
	キヌヒカリ	3/31	4/25	6/4	6/9	7/6	7/26	8/25	9/2
	みえのゆめ	4/10~15	5/5	6/14	6/19	7/16	8/5	8/31	9/7
水管理									
	<p>活種するまで深水中に保水 田植後はひたひた水 ・除草剤散布後30日程度は水を浅水管理 ・切らさない様に注意する ・1株20~30本になったら足跡水 ・中干しの散行(田植後45~55日頃) 時期が遅れないようにする ・中干し直後は走り水 ・5~7日に1回水を入れる程度 ・出穂期は水が必要 ・未熟粒防止のための重要水管理期間 ・落水が早いと減収する ・収穫7日前まで土壌水分を維持</p>								
主要作業	<p>ケイカル・よろりん施用 堆肥施用 土づくり 収穫後早期に耕起する いる頃 一穂に青粉が2~3粒残って 適期刈り取り</p>								
	<p>補植苗を撤去しましょう！ 畦畔の草刈をしましょう！</p>								
病害虫防除	<p>箱施用の防除(田植時の防除) 生育中期の防除 出穂期前後の防除</p>								
	<p>イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ ニカメイチュウ・イネクロカメムシ・葉いもち 葉いもち 穂いもち いもち病・もんがれ病・カメムシ類 稲こらじ病 カメムシ類</p>								

※農薬を使用する際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に充分注意してください!!

白未熟粒(シラタ)軽減対策

白未熟粒の発生は、出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると急激に増加する。また、発生要因は高温だけでなく、水や日照時間、施肥量不足などの複合的な要因も考えられている。平均気温が27℃以下になる頃(9月上旬)に出穂時期を迎えるように田植えを行うことが望ましいが、その場合、田植えが6月上旬頃となる。

上記のように作付け時期を遅らせる、もしくは作付け時期の遅い品種に変更することが白未熟粒を軽減させる対策としてはもっとも有効と考えられるが、現状では困難であるため、下記の方法を白未熟粒軽減対策として推奨する。

- 土づくり
ケイカルなどの土壌改良資材を収穫後に散布し、根張り良くしっかりとした稲を作り、倒伏や病害虫を発生しにくくし収量・食味を向上させる。
- 早期落水の防止
早期に落水する事により土壌水分が低下して、株が枯れ、白未熟粒が発生しやすくなるので収穫7日前までは落水せず、土壌水分を維持させる。
- 白未熟粒軽減資材の活用
数年前より、県の農業研究機関にて試験を行なった白未熟粒軽減資材(下記参照)を施用する事により軽減させる(但し、気象条件等により効果に差があります)。

育苗

- ◎種子の準備 毎年種子更新しましょう。
- ◎塩水選

うるち米	水10ℓ 1.13の塩水	もち米	水10ℓ 1.06の塩水
------	-----------------	-----	-----------------
- ◎種子消毒

作業	温度・日数	要	点
消毒	15~20℃ 24時間	みえのゆめ以外の品種 種粉と同容量の薬液を作る(水20ℓ当り) テクリドCフロアブル...100㎖ (馬鹿苗病・もみ枯病) スミチオン乳...20㎖(イネガリセンチュウ)	
浸種	10℃では 10~12日 15℃では 7日~	水の量は稲の容積の2倍以上とする 始め2~3日は静置、その後1~2日毎に水を変え コシヒカリでは長目に漬ける ※精算温度100℃以上	
催芽	30~32℃ 1~2日	ハト胸とし、芽は伸ばさない	
- ◎育苗箱消毒 イチバン500~1000倍液に箱をさっと漬ける
- ◎培土 箱入れ後、乾かさないよう注意しましょう。(1箱当り約3~4kg必要)
- ◎病害防除

農薬名	時期	1箱当り施用量	備考
タチガレエースM粉	播種直前	6~8g	ムシ苗にも有効
タチガレエースM液	播種時	500~1000倍、500㎖	ムシ苗にも有効
- ◎播種 厚播きは苗を悪くする。催芽粉1.5~1.8合とする。均一に播く。土の表面の水が引いてから播種する。覆土は粉がくくれる程度
- ◎育苗管理

作業	温度・日数	要	点
出芽	30~32℃ 約2~3日	芽の長さ1~1.5cmにする 光を当てない	
緑化	日中20~25℃ 夜間15~20℃ (保湿・暖房)	緑化は2段階の作業 (1)緑になるまで覆いをする(新聞紙など) (2)箱の部分を3.5cmに伸ばす フジワング粒による健苗育成、ムシ苗予防 播種後3~7日に散布。25~50g/箱 早い程、又重量が多い程短苗になるので注意 被覆中もカビの発生に注意	
硬化	日中15~20℃ (換気) 夜間10~15℃ (保湿)	日中高湿にしないよう特に注意する 緑化用の厚手白ビニールは使わない ハウス・トンネルは一日中当りの良い場所 灌水は1日1回、1~1.2ℓ/箱 午前中(遅くとも15時まで)が良い ハウス内にワラ、モミガラがあるといもち病が伝染する。 箱の下にビニールを敷く場合は穴をあける	

施肥設計

- ◎コシヒカリ元肥一発(10a)
白未熟粒軽減資材

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	エムコート022	35~40kg
	セラコートR822	40kg前後

- ◎コシヒカリ緩効性肥料(10a)

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	津安芸水稲化成	25~35kg
	IB化成050	
追肥第1回目(出穂18日前)	NK化成4号	10~20kg
追肥第2回目(出穂7~10日前)	NK化成4号	10~20kg
追肥第3回目(出穂期頃)	NK化成4号	5~10kg
追肥一発(出穂18日前)	グッドIB045	20~25kg

- ◎その他の品種元肥一発(10a)

品種	肥料名	施用量
あきたこまち みえのえみ	エムコート583(早生用)	40~50kg
みえのゆめ ヤマヒカリ	セラコートR2500(中晩生用)	45~55kg

- ◎品質・登熟向上資材(10a)

資材名	施用量	施用時期
けい酸加里	20~40kg	出穂前45~35日まで
マルチサポート	20~40kg	出穂前45~35日まで
FTEミネラス	3~6kg	出穂前35~25日まで

効果
1.活力ある根が張り、稲体を強化し倒伏に強くなります。
2.登熟が高まるとともに粒張りが良くなり、食味向上に役立ちます。

土づくり

土づくりは品質向上への第一歩です。

(1)有機物の施用 堆肥を連年施用する(年内施用)
1~2トン
湿田、半湿田では完熟のもの500kg
稲わらすき込み
・秋起こし(刈取直後)
・石灰窒素10~20kg(秋起こし時)施用

(2)深耕 作土層を深くする(15~20cm)
下層が不良土壌の場合は行わない

(3)土づくり肥料の施用
ケイカル
又は リンスターケイカル } 200kg
単品ならケイカル } 200kg
又は よろりん } 40kg (黒ボクでは80kg)
又は リンスター } 40kg
コシヒカリには特にケイカルが必要
ケイカル省力材・農力アップなら反当り100kg

除草

除草剤の正しい使い方
・散布適期、散布量を厳守する。
・田面の均平と適正な水管理。

田植え同時散布可能な
初中期一発除草剤
・トップガンGT粒
・トップガンLフロアブル
・イネキング粒
・シリウスエグザ粒

ノビエに対する使用時期

農薬名	使用時期
エーワン粒	2.5期期まで
トップガンGT粒	2.5期期まで
トップガンLフロアブル	3.0期期まで
イネキング粒	2.5期期まで
シリウスエグザ粒	2.5期期まで
コメットジャンボ	2.5期期まで

※ムレ苗防止 健苗育成にフジワング粒!! イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ・ニカメイチュウ・いもち病にはDrオリゼスタークル箱粒で!!
※品質向上には、毎年種子更新と土づくりをしましょう!! ※稲ワラの流出防止のため収穫後早期に耕起しましょう!!

防除日誌

使用月日(天候)	使用薬剤名	倍率・量	全使用量	使用目的
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				

作業日誌

作業月日	圃場	作業内容	備考
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			

安全・安心な米づくりのために栽培履歴(防除日誌)を必ず記帳しましょう! 農薬の安全使用基準を守りましょう!